

ボランティアセミナー及び懇親会の開催概要

本年より、セーリングワールドカップシリーズが日本で開催されます。また、来年にはオリンピックのプレプレ大会も開催されます。

この機会に JSAF ボランティア登録をいただきました皆様にご参集いただき、大会運営へのご理解と今後のご協力をいただきたく、この度セミナー及び懇親会を開催いたしました。

その概要は下記の通りでした。

今回はご参加いただけなかった方々にもその概要をお知らせいたします。次回のセミナーには是非ともお越しくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

■ 日時 : 平成 29 年 3 月 21 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00

■ 場所 : 日本スポーツマンクラブ

東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館内 1 階

■参加者 108名

■ 内容 :

① セミナー 18 : 00 ~ 19 : 00

- ・ 会長挨拶
- ・ SWCマイアミ大会報告
- ・ 2020 東京オリンピックセーリング競技準備状況について
- ・ 今後のボランティア育成計画について
- ・ その他

② 懇親会 19 : 00 ~ 20 : 00

(立食パーティー、希望者のみ参加費 2,000 円)

■セミナーの概要【司会：準備委員会 小山】

1 山崎名誉会長あいさつ

○今回のセミナーには予想を上回るご参加があり、ボランティアの皆さんのオリンピックに対する興味の深さを感じている。さらにもっと良いコミュニケーションが望まれるところです。

○準備委員会の仕事は大変な状況だと思うが、河野会長のお骨折りで 470 級はオリンピック種目に残った。また、ショーケースイベントとしてオーシャンレースやカイトセーリングも行われるとのこと、今後の動きに注目したいところです。

河野会長あいさつ

- 2020東京オリンピック・パラリンピック招致が決まってどこの競技団体よりいち早くボランティアの募集を行ってきたが、今は600名を超す応募となりました。
- 昨年はJ24の世界選手権を開催し、今年は470級のユースやテザー級、ウインドサーフィンの世界選手権があり、ワールドカップも蒲郡で開催されます。来年、再来年には江の島でも開催され、2020ワールドカップ江の島大会はオリンピック直前の6月に行われます。
今年のワールドカップは予算上の制約もあり、中部地区の地元の方中心にお手伝いをいただくことになりそうだが、ボランティアの皆さんには海上のみならず陸上でのお手伝いもお願いしたい。
- JSAF登録のボランティアの皆さんには語学の問題もあるが、レースだけでなく幅広いカテゴリーの中でご支援をいただきたい。これから組織委員会でもボランティアの募集が始まるので、皆さんの実績を伝えておきたい。大会では予算も厳しいことから有給のスタッフは100数十名で、ボランティアの方々100数十名については交通費と食事やウエアの提供くらいでお手伝いいただくことになりそうです。今後もできる限り情報を提供していきたいのでご注目ください。

2 SWCマイアミ大会報告【準備委員会 桑原副会長】

- SWC（セーリングワールドカップ）とはスキーのワールドカップのようなもので、9年目を迎えた。いろいろな試みがなされ、今回は新しいシリーズの3回目。視察はレース開始前の2日半で、会場の準備状況を視察した。レースの視察は大広（JSAF委託の広報会社）さんをお願いした。
- このSWCには世界のランキング上位の選手のみが出場するので、各国1代表のオリンピック以上に厳しい大会ともいえる。今回は出場枠420チームに対し307チームの出場。
- 会場はマイアミのココナツグローブという地区で4つの施設群に分かれていたが、間には大きなショッピングモールなどもあり、広い範囲の会場であった。したがってセキュリティーについては問題点も多く、管理に関する契約書を確認したが入口の管理なども緩やかであった。レース海面はかなり沖で遠く、陸上からは全く見えないところであった。
- スポンサーは少なかった。協賛会社は①メインスポンサーはサンブレラ1社。②セカンドスポンサーは5社。③サードスポンサーは10社であった。ブースを構えているスポンサーはザイク1社であり、Tシャツやポロシャツを販売していた。なおWSから蒲郡では車会社のスポンサーはNOと言われている。
- 今回大会運営責任者と話ができただけが一番の収穫であった。ボランティアも少なかった。WCからは多くの観客を集めるイベントの共催を求められており、マイアミ

大会ではメダルレースの日にマラソンが開催され会場が折り返し点となっていたが、SWCの観客との関連性も少なく効果があったかどうかは疑問であった。

- 協賛会社のパネルには10社だけの掲載で、パンフレットなどもなかった。
- レースはユーチューブでライブ放映が行われ、メダルレースは2日間400インチビジョンで中継が放映されていた。

3 2020 東京オリンピックセーリング競技準備状況について【神奈川県 三枝担当課長】

- 江の島で2020東京オリンピックセーリング競技が開催できることを大変光栄に思う。
- 大会開催に向けた取り組みでは、まず大会がきちんと開催できるようにすること、そして大会後も各種世界大会などが開催できるヨットハーバーとすることを第一義としている。
- そのための予算を確保している。プレ大会までに建設するセーリングセンター（艇整備庫）の設計委託費として4,000万円。2か所の給油施設の整備費と橋の3車線化の拡幅工事費として3億2,530万円。葉山港のディンギー置き場の拡張工事費として2億4,500万円を計上している。
- また、2020東京の大会成功に向けてその機運を高めるために1,000日前イベントの開催
することで1,726万円を計上している。その他神奈川で開催される競技のオリンピック教室などを開催し、開催競技の周知や普及にも努めたい。

Topics x 3 (最近の動きについて)【準備委員会 入部】

- WSではオリンピックの今後の試みが検討されている。
- まずはIOCアジェンダでも言われている男女の選手数とメダルの数の同数化である。男子190人、女子190人とする案。
- 次にWSの提案であるさらにセーリング競技の魅力や注目度を高めるための新しいレースフォーマット・装備の検討である。ナクラ級のフォイリング化の検討。
- もう一つは同じ主旨のWSの提案であるショーケースイベント(メダルなしの公開競技)を行うこととし、若者に人気が出てきているカイトセーリング、そして男女ペアで4日間戦うオフショアレーシングを導入しようとしている。オフショアレーシングでは江の島沖スタートで南下し、その後北上し東京港のゲートブリッジフィニッシュといったようなレースがイメージできるのではないかと。
- テストイベントであるが、セーリング競技ではプレ大会とプレプレ大会の2大会行うこととなっている。2019年7月～8月と2018年9月に開催予定。
- TOKYO 2020の組織は、6分野で52ファンクションとなる。
- 最後に、競技ボランティアのほかに会場整理や案内などの一般ボランティアの募集も行われるので、こちらの方も多くの方に応募していただきたい。

4 ボランティア育成計画【準備委員会 天辻】

- 現在多くの方に JSAF ボランティア登録していただいているが、今後競技ボランティアもしくは一般ボランティアとして支援いただくかアンケートを行う予定である。
- スケジュールについては未定である。
- 今のところでは、募集条件と処遇についてはオリンピック組織委員会が検討している。

【レース委員会 磯部】

- 今年は3大会、来年は2大会、19年はプレ大会、20年には直前 SWC が開催されるので、これらの大会にボランティアの方々にも参加していただき、トレーニングを重ねていきたい。

【ルール委員会 前園】

- 海上でのジャッジや陸上でも審問などが行われるが、これらに関係するお手伝いもあるので、興味があればルール委員会に声掛けを。

【ODC 計測委員会 広田】

- 2016リオ大会やマイアミ SWC の計測の様子をご覧いただきたい。計測は真夏の炎天下の海上に出ることはなく、冷房効いた計測所（温度による計測誤差をなくすため）の中での仕事なのでどうぞ。

5 その他（障害者セーリング委員会 鈴木、高間）

- WS でも障害者セーリングが統合されたことから、JSAF でも昨年9月に委員会が設立した。
- 2020東京パラリンピックでは、世界での競技の普及が不足しているためセーリング競技が外されてしまった。2018年に2024年にはセーリング競技は復活するようなイベント（レース）を日本で開催し、8大陸から32か国以上の参加実績を作りたい。

6 懇親会

- 会場：スポーツマンクラブ
- 参加者 76人
- 中川副会長の音頭で乾杯。その後懇親。
- 小山副委員長が懇親会を締めた。